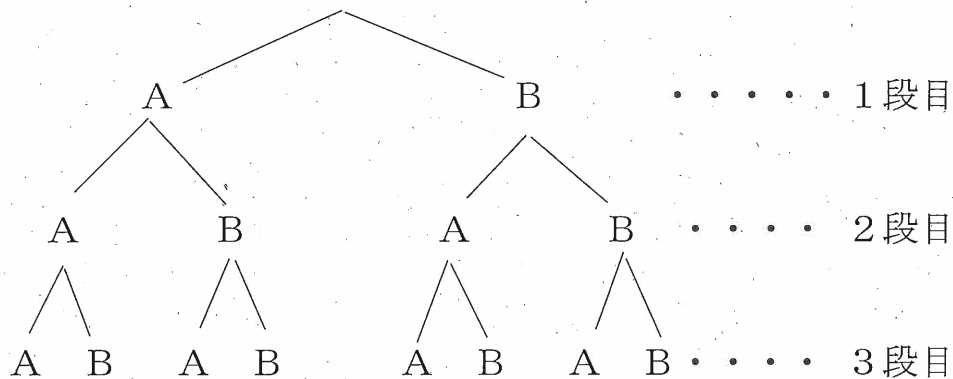




分岐点

算数（数学）の問題です。「下図のように A と B を書き込んでいき、その組み合わせを数えると、5 段目では何通りの組み合わせができますか」

【図】



答えは 1 段目が 2 通り、2 段目で 4 通り、3 段目で 8 通り…となっているので 2 の X 乗で求められます。つまり 2 の 5 乗 $(2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2)$ で 32 通りの組み合わせです。この調子でいくと、10 段目ではなんと 1024 通りの組み合わせとなります。

私たちは誕生してから数々の分岐点で選択をして今に至っています。それは、人生における大きな選択から、右か左か、YES か NO かといった日常的なものも含めて無数にあります。

子どもたちも同様でしょう。授業をどのように受けるか、宿題をしてるかしてないか、仲間とどのように過ごすのか等々。選択肢は 2 択ばかりではないでしょう。しかし、どの選択肢を選んでも選んだ分岐点には戻れません。選んだ結末がどのようなになるかは分かりませんが、選択した先の今にたどり着きます。そして、また次の分岐点が訪れます。

子どもたちが分岐点でよりよい結末にたどり着ける判断ができるよう、先に多くの分岐を経験してきた大人として、子どもがよりよい判断ができる力を養わせたいものです